

2024/2/29 (水)

朝の礼拝

聖書 コリントの信徒への手紙 I 3章 6-7節 (新約聖書302頁)

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

親しき仲にこそ

家族、友だち、先生でも不思議なもので親しくなり、仲良くなればなるほど喧嘩もよくするようになります。いちばん分かりやすいのは、家族や兄弟姉妹、そして最も親しい人同士ほどよく喧嘩をすることがあります。戦争もお隣の国同士や、一つの国の中で、同じ民族同士で争っていることが多いですね。

パウロはコリントの町にイエスのことを伝え、教会ができました。祈りと食事を共にしてコリントの教会の人たちはとても親しくなりました。ところがわたしはパウロ先生、わたしはアポロ先生がいいと喧嘩が始まりました。そこでパウロは種から生長する草花にたとえて手紙を書いたのです。

わたしパウロは神様の愛を種のように皆さんの心に蒔きました。そしてアポロ先生は水を注いで芽を出し、葉をつけるように皆さんを見守ってきました。でもわたしもアポロ先生も神様の畑と一緒に働く仲間です。大切なのは神様の畑である皆さんに神様の愛の花が咲き、豊かに実ることですと伝えていきます。

私たちは一緒に生活していれば、お互いのことが気になります。自分と似ている人や憧れの人には天にも昇るような気持ちになりますが、そうでないと最悪です。でもこの世界は神様の畑です。わたしたちは神様の愛が実るのを共に喜ぶ仲間だとパウロは言っています。「親しき仲にこそ神の愛あり」です。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、もうすぐ本年度の学びが終わります。進級、卒業から新たなステージへと向かっています。赤の高校三年生は、本日は卒業記念礼拝、同窓会入会式、そして明日は卒業の旅立ちの時を迎えます。どうかあなたの愛に育まれた英和生たちに祝福をお与えください。また本日テストを受ける英和生がベストを尽くし、自分自身を愛し、互いに励まし合い学び続ける喜びを与えてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン